

## メッセージアウトライン コリント人への手紙 第一16:13~24 「最後のあいさつ」

[13-14]「目を覚ましていなさい。堅く信仰に立ちなさい。男らしく、強くありなさい。いっさいのことを愛をもって行いなさい」

パウロの最後のあいさつに際し、ここで4つの勧めがなされる。①目を覚ましていなさい。…主がいつ来られてもよいように、また、誘惑や絶望や自己満足に陥らないようにこころ備えをしていなさいとの意味。②堅く信仰に立ちなさい…心からの信頼と服従をもって何事にも動かされることなく、真の神に従い続けるように。③男らしく、強くありなさい。…このことばは特に男性の信者向けであるが、男は、家族、教会、社会等、様々な状況における自らの責任を自覚し、逃げたり、責任転嫁することなく力強く誠実に生きること。もちろんそこには神の力、聖霊の力により頼んで生きるということが必要。

④いっさいのことを愛をもって行いなさい。…I コリント13章参照。

[15-16]「兄弟たちよ。あなたがたに勧めます。ご承知のように、ステパナの家族は、アカヤの初穂であって、聖徒たちのために熱心に奉仕してくれました。あなたがたは、このような人たちに、また、ともに働き、労しているすべての人たちに服従しなさい」

ステパナは17節にあるように、コリント教会からの質問、相談をもってパウロの所を訪ねて来た三人の使いのうちの一人。ステパナの家族はコリントのあるアカヤ地方で最初にキリストを信じた人々すなわち「初穂」であった。彼らは先輩風を吹かすことなく、聖徒たちのために熱心に仕え奉仕した。このような人々こそが真に教会を支えている。パウロはこのような人々またその同労者たちに服従するように勧める。

[17-18]「ステパナとポルトナコとアカイコが来たので、私は喜んでいきます。なぜなら、彼らは、あなたがたの足りない分を補ってくれたからです。彼らは、私の心をも、あなたがたの心をも安心させてくれました。このような人々の労をねぎらいなさい」

この三人の派遣は単にパウロばかりではなく、コリント教会にとっても益となることであった。それは彼らがパウロに仕え、交わり、奉仕したことによって、それを聞くコリント教会の人々の心をも喜びと安心で満たすことができたからである。パウロは彼と教会の交わりを堅く結ぶ役割を果たしたこのような人々の労をねぎらいなさいと勧め、その働きを高く評価している。

[19]「アジアの諸教会がよろしくと言っています。アクラとプリスカ、また彼らの家の教会が主にあって心から、あなたがたによろしくと言っています」

この場合のアジアとはローマ帝国の行政区域の一つを指す名称で、小アジアの西部にあたる地域。その首都こそ今パウロが滞在しているエペソであった。その周辺のコロサイ、ラオデキヤ、ヒエラポリスといった町々にも、枝教会がすでに建てられ

ていた。これらの小アジアの諸教会とパウロの協力者として支え、奉仕したアクラとプリスカ夫妻とその家の教会からのあいさつも送られる。この夫妻はどこに移っても自分たちの家を提供して集会を開き、家の教会として活動していたようである。彼らは初代教会の伝道史上に美しい足跡を残した。

[20]「すべての兄弟たちが、あなたがたによろしくと言っています。聖なる口づけをもって、互いにあいさつをかわしなさい」

聖なる口づけとは、当時のユダヤ人の習慣からのもので、心からの聖なる思いによるあいさつのこと。コリント人たちにこのように勧めることは、互いの一致のために有効であったと思われる。

[21-22]「パウロが自分の手であいさつを書きます。主を愛さない者はだれでも、のろわれよ。主よ。来てください」

パウロは目に弱さを覚えていたと思われるので、普段は協力者に頼んで口述筆記をしていた。しかし、今この最後に当たり、彼自ら筆を取り、手紙を結ぶ。こうすることによってこの手紙が偽物でないということのしるしにもなる。そしてこの「主を愛さない者はだれでも、のろわれよ」とのことばには彼のコリント人への並々ならぬ思い、叱咤、譴責、主への熱心が込められている。「主よ。来てください」は初代教会における祈りのことばであった。

[23-24]「主イエスの恵みが、あなたがたとともにありますように。私の愛は、キリスト・イエスにあって、あなたがたすべての者ととともにあります。アーメン」

パウロは教会の存在の基盤が主の恵みの事実にあることをよく知っており、それゆえ、今この最後に当たり、主の恵みを願い求める。

彼の愛はコリントの一部の人々とともにではなく、彼を良く思っていない人々をも含めて、すべての者とともにあると言う。コリント教会が問題の多い教会であればあるほど、このパウロのことばは重みを増す。そしてこの「私の愛」とは彼を源とするものではなく、彼を愛してくださった主イエス・キリストご自身からのものなのである。